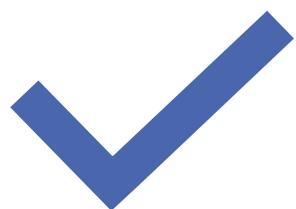


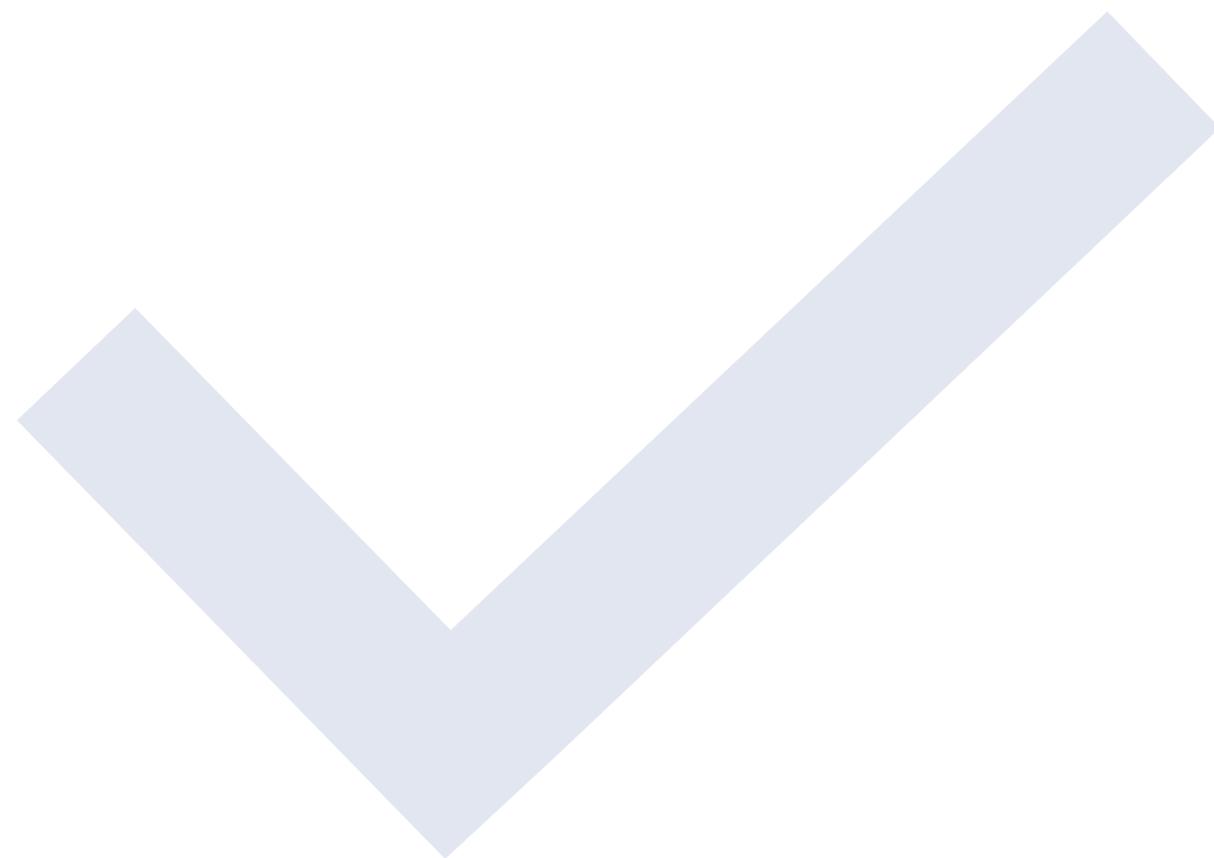
絵画撮影 マニュアル





目次

1. 撮影の基本原則
2. 初級者編
3. 中級者編
4. 上級者編
5. 絵画撮影の特殊な注意点
6. 編集のポイント
7. チェックリスト



1. 撮影の基本原則

1-1. 絵画撮影の目的を理解する

オンライン販売における絵画撮影の目的は、作品の魅力を正確に伝えることです。具体的には以下の点を満たす必要があります。

正確な色彩再現: 絵画の色彩を可能な限り忠実に再現する

詳細な表現: テクスチャや筆致などの細部まで鮮明に捉える

歪みのない構図: 作品の形状が正確に表現されている

反射や映り込みの排除: ガラスや絵の具の反射を最小限に抑える

均一な照明: 作品全体が均等に照らされている

1-2. 共通の基本原則

どのレベルでも共通して守るべき基本原則は以下の通りです。

額縁は外す: 可能であれば額縁は取り外し、反射やガラスの映り込みを防止

清潔な環境: ほこりや汚れのない環境で撮影

中性的な背景: 作品を引き立てるシンプルな背景（白または黒が理想的）

三脚の使用: ブレを防ぎ、正確な構図を維持するために必須

反射防止: 光源の位置調整による反射の管理

安定照明: 一定の光量と色温度を維持

2. 初級者編

初心者向けのセクションでは、特別な機材がなくても実践できる基本的な絵画撮影テクニックを紹介します。

2-1. 必要な機材

カメラ:スマートフォンまたはデジタルカメラ（5メガピクセル以上）

三脚:スマートフォン用または小型カメラ用の安価な三脚

光源:自然光（窓からの光）または家庭用LED照明

背景紙:白い画用紙またはホワイトボード

レフ板代用品:白い厚紙や100円ショップのフォームボード

2-2. 撮影環境の設定

1. 場所の選定

- ・窓際の間接自然光が入る場所を選ぶ
- ・直射日光は避け、日中の10時～14時の柔らかい光を利用する
- ・蛍光灯など室内光のみの撮影は避ける（色温度の問題）

2. 簡易セッティング

- ・壁に白い背景紙をテープで固定
- ・背景紙の前に絵画を立て掛けるか、イーゼルを使用
- ・三脚をセットし、カメラが絵画と平行になるよう調整
- ・窓からの光が斜め45度から当たるようにする

2-3. カメラ設定

1. スマートフォンの場合

- ・HDRモードをオンにして動的範囲を広げる
- ・グリッド線表示をオンにして構図をまっすぐに
- ・タップしてピントを合わせ、露出を調整（暗すぎず明るすぎない）
- ・タイマー機能を使用してシャッターを押したときのブレを防止

2. デジタルカメラの場合

- ・オートモード使用（カメラ操作に不慣れな場合）
- ・ISO感度：100～400（できるだけ低く設定）
- ・ホワイトバランス：「太陽光」または「曇天」設定
- ・セルフタイマーを使用してシャッターボタンによるブレを防止

2-4. 撮影テクニック

1. 構図の取り方

- ・ 絵画が画面いっぱいに収まるよう調整するが、少し余裕を持たせる
- ・ カメラは絵画の中心と同じ高さに配置
- ・ カメラレンズが絵画と完全に平行になるよう注意

2. 光の調整

- ・ 窓からの自然光を主光源として利用
- ・ 反対側に白いフォームボードを配置して反射光を作る
- ・ 光が均等に当たっていることを確認（四隅に影がないか）

3. 反射防止

- ・ 光源と絵画の角度を調整し、カメラに光が直接反射しないようにする
- ・ 絵を少し傾けて反射を避ける（歪みは後で編集で修正）
- ・ 艶のある絵画の場合、窓との角度を工夫

4. 複数枚撮影

- ・ 少しずつ設定や位置を変えて複数枚撮影（後で最良のものを選択）
- ・ 露出を少し変えて撮影（±0.5程度）
- ・ 異なる光の状態でも複数枚撮影

2-5. 簡易編集

1. 無料アプリでの編集

- ・ Snapseed、VSCO、Adobe Lightroom（無料版）などのアプリで調整
- ・ トリミングして余分な背景を削除
- ・ 明るさ、コントラストの微調整
- ・ 色温度の調整（実物と比較しながら）

2. 歪み補正

- ・ スマホアプリの「遠近補正」機能で四角形を正確に
- ・ 「ピタリ四角」などの専用ソフトを使用する方法も

3. 中級者編

中級者向けのセクションでは、より品質の高い撮影を目指し、適切な機材選定と技術向上に焦点を当てます。

3-1. 必要な機材

カメラ:一眼レフまたはミラーレスカメラ（中級モデル）

レンズ: 50mm前後の単焦点レンズまたは中望遠ズームレンズ

三脚: 堅牢な三脚（可動域の広いもの）

照明: LEDライト2台または小型ストロボ

ソフトボックス/アンブレラ: 光を拡散させるための機材

レフ板: 白/銀/金の折りたたみ式レフ板

カラーチェッカー: 色調整用の基準カード

3-2. 撮影環境の設定

1. 専用スペースの確保

- ・ 部屋の一角を簡易スタジオとして確保
- ・ 周囲に反射する物がない環境を整える
- ・ 黒または灰色の背景布/紙をセット

2. 照明セットアップ

- ・ 主光源（キーライト）を絵画の左右どちらか約45度の位置に設置
- ・ 補助光源（フィルライト）をより弱い光量で反対側に配置
- ・ 両方の光源にソフトボックスまたはアンブレラを装着
- ・ 照明は絵画に対して約30度の角度から当てる（反射防止）

3-3. カメラ設定（中級者）

1. 撮影モード

- ・絞り優先モード（Av/A）で撮影
- ・絞り値：f/8～f/11（適度な被写界深度を確保）
- ・ISO感度：100～200（できるだけ低く）
- ・ホワイトバランス：手動設定（カラーチェッカーを使用）
- ・画質：RAW形式（後処理の自由度を高めるため）

2. ピント設定

- ・オートフォーカスで合焦後、マニュアルフォーカスに切り替え
- ・フォーカスポイントを作品の中央または重要な部分に設定
- ・ピント確認のため拡大表示機能を活用

3-4. 撮影テクニック（中級者）

1. 照明バランスの調整

- ・露出計またはカメラの内蔵測光を使用して四隅と中央の光量を測定
- ・均等な照明分布を実現するためにライトの位置と強さを微調整
- ・ライトの角度を調整して反射を最小限に

2. 反射対策の工夫

- ・額縁を外す、またはガラス面を取り外せない場合は角度調整
- ・偏光フィルター（PL）を使用して反射を軽減
- ・黒い布をカメラの周囲に配置して映り込みを防止

3. 色再現性の向上

- ・カラーチェッカーを作品と一緒に撮影
- ・グレーカードを使用してホワイトバランスを正確に設定
- ・複数の露出設定で撮影（ブラケットイング）

3-5. 編集作業（中級者）

1. 色調補正

- ・ Adobe Lightroom/CaptureなどでRAWファイルを現像
- ・ カラーチェッカーを基準に色調補正
- ・ 露出、コントラスト、ハイライト、シャドウの微調整
- ・ 実物と比較しながら彩度と色相を調整

2. ジオメトリ補正

- ・ 遠近感のゆがみを補正
- ・ クロップして正確な比率に調整
- ・ 必要に応じて回転や垂直/水平補正

3. 出力準備

- ・ Web用（72dpi）と印刷用（300dpi）の異なる解像度でエクスポート
- ・ 適切なファイルサイズにリサイズ（ウェブサイト用は最大幅800px程度）
- ・ sRGB色空間で保存（ウェブ表示用）

◎カメラは作品の中心と同じ高さにし、作品と平行にセットすることが正確な絵画撮影の基本です。

4. 上級者編

上級者向けのセクションでは、プロフェッショナルレベルの絵画撮影テクニックと高度な機材の活用方法を解説します。

4-1. プロフェッショナル機材

カメラ: 高解像度の一眼レフまたはミラーレス（キヤノンEOS R/ニコンD850/ソニーα7Rシリーズなど）

レンズ: 中望遠マクロレンズ（90mm～100mm）または高品質な標準レンズ

照明システム: スタジオストロボ2～3灯セット（プロフォト/ブロンカラーなど）

ライトモディファイア: 大型ソフトボックス、グリッドスポット、バウンスアンブレラ

測光機器: 露出計、カラーメーター

カラーマネジメント機器: モニターキャリブレーション用分光測色計、カラーチェッカーパスポート

特殊機材: ティルトシフトレンズ（必要に応じて）、専用撮影台、反射制御パネル

4-2. 高度な撮影環境構築

1. 専用スタジオスペース

- ・完全に制御された照明環境
- ・天井と壁面が中性色（グレー）の空間
- ・外光の完全な遮断（一定の光環境を維持）
- ・防振対策（床の振動を抑える）

2. プロフェッショナル照明セットアップ

メインライト：大型ソフトボックス装着のストロボを作品に対して30～45度に配置

フィルライト：反対側から弱い補助光（メインの1/2～1/3の光量）

バックライト：必要に応じて作品の縁取りや質感強調に使用

光量測定：露出計で各部の光量を正確に測定し、均一な照明を実現

3. 反射対策の高度な技術

- ・黒布またはブラックフラッグの戦略的配置
- ・偏光フィルターとストロボの組み合わせによる反射コントロール
- ・立体作品用の複数光源による陰影調整

4-3. プロフェッショナルな撮影テクニック

1. 高精度なカメラ設定

- ・ 完全マニュアル露出制御
- ・ 最適絞り値の選定（レンズの最シャープポイント）
- ・ ミラーアップ撮影（一眼レフの場合）または電子先幕シャッター（ミラーレスの場合）
- ・ タイマー撮影またはリモートリリース使用
- ・ フォーカススタッキング（必要に応じて）

2. 精密な色再現

- ・ カスタムホワイトバランス設定
- ・ カラーチェッカーパスポートを使用したカメラプロファイル作成
- ・ CIE D50またはD65光源の使用（印刷環境に合わせて）
- ・ カラーキャリブレーションツールによる正確な色調整

3. 最適な構図とフレーミング

- ・ ナイフエッジフォーカス技術（絵画の縁に沿ったシャープさを確保）
- ・ テザー撮影による即時確認と調整
- ・ 虫眼鏡やルーペを使用した詳細確認
- ・ 作品サイズに応じたセンサーの最適活用（構図の微調整）

4-4. 高度なデータ処理と編集

1. カラーマネジメント

- ・ キャリブレーション済みモニターでの作業
- ・ 完全なカラーマネジメントワークフロー構築
- ・ ICC/ICMプロファイルの適切な使用
- ・ CoCaなどのソフトウェアを使用したカスタムICCプロファイル作成

2. 高度な画像処理

- ・ Adobe PhotoshopまたはCapture Oneでの詳細な調整
- ・ ハイエンドレタッチテクニック（非破壊編集）
- ・ 周波数分離法による質感調整
- ・ 16bitカラー深度での作業

3. 出力最適化

- ・ 用途別のサイズと解像度調整
- ・ シャープネスの精密制御
- ・ プリント用プロファイル作成（必要に応じて）
- ・ アーカイブ用マスターファイルの保存（多階層TIFFまたはDNG）

プロフェッショナルな写真処理において、モニターのキャリブレーションは色の正確性を確保する上で最も重要なステップの一つです。

5. 絵画の撮影の特殊な注意

5-1. 額縁と反射の処理

1. 額縁の取り扱い

- ・ 基本的には額縁を外して撮影（特にガラスカバーがある場合）
- ・ 額縁を外せない場合は、斜めに配置して反射を避ける方法を検討
- ・ メイクスポンジなどを使って高さを調整し、安定させる
- ・ 黒い背景を使用して映り込みを軽減

2. ガラス面の反射防止

- ・ 偏光フィルター（PL）を使用して反射を軽減
- ・ 照明の角度を約30度に調整して正面反射を避ける
- ・ 黒いフード状の装置をカメラレンズの周りに設置
- ・ 特殊な反射防止ガラス/アクリル（ノングレア）の使用を検討

5-2. テクスチャと立体感の表現

1. 油彩画のテクスチャ捕捉

- ・ 斜光線（側光）を用いてテクスチャを強調
- ・ マクロレンズを使用してディテールを捉える
- ・ テクスチャを強調したいエリアに応じた照明角度の調整
- ・ レンズの解像度を最大限に活かす絞り値の選択

2. 金箔・銀箔など特殊素材の撮影

- ・ 複数の光源角度での撮影
- ・ HDR合成技術の活用
- ・ 分光反射特性を考慮した照明選択
- ・ カラーマネジメントソフトウェアでの特殊処理

5-3. スキャナーの活用

特定の条件下では、カメラよりもスキャナーの方が絵画の質感を正確に再現できることがあります。

1. スキャナーのメリット

- ・ 反射の問題が発生しない
- ・ 均一な光量と色再現性
- ・ 高解像度でのデータ取得が容易
- ・ フラットな作品に最適

2. 適応条件

- ・ 額装されていない平面作品
- ・ サイズがスキャナーのベッドに収まる作品
- ・ テクスチャが比較的控えめな作品
- ・ 色彩の正確な再現が特に重要な場合

3. 注意点

- ・ 厚みのある油彩画は焦点距離の問題が生じることがある
- ・ 大型作品はセクション分割スキャンが必要
- ・ WideTEK(R) 36ARTなどの大判アートスキャナーの使用を検討

6. 編集のポイント

6-1. 基本的な編集手順

1. RAW現像

- ・ ホワイトバランスの最適化
- ・ 露出とコントラストの調整
- ・ ハイライトとシャドウの回復
- ・ レンズ補正（歪み、周辺減光の修正）

2. 構図の調整

- ・ 遠近感の補正
- ・ 水平/垂直の調整
- ・ 適切なトリミング
- ・ アスペクト比の維持

6-2. 色調補正と忠実性

1. 色調調整

- ・ カラーチェッカーを基準とした色調整
- ・ 実物との比較による微調整
- ・ HSL（色相・彩度・輝度）の個別調整
- ・ 色温度の微調整

2. カラープロファイルの活用

- ・ 撮影時に作成したカメラプロファイルの適用
- ・ モニター用プロファイルの確実な適用
- ・ 出力機器に応じたプロファイル変換
- ・ カラースペース管理（AdobeRGB、sRGB、ProPhotoRGBの適切な使い分け）

6-3. 最終調整とエクスポート

1. 細部の調整

- ・シャープネスの適切な付加
- ・ノイズ軽減（必要に応じて）
- ・ダスト/スポット除去
- ・ディテールの強調

2. 出力設定

Web用：72dpi、sRGBカラースペース、適切なサイズにリサイズ

印刷用：300dpi以上、印刷用カラースペース

オンラインギャラリー用：中間サイズと適切な圧縮

アーカイブ用：非圧縮または可逆圧縮の高解像度ファイル

7. チェックリスト

7-1. 撮影前チェックリスト

- [] 作品の状態確認（ほこり、傷などの清掃）
- [] 額縁を外す（可能な場合）
- [] 撮影環境の整備（背景、不要物の除去）
- [] 機材の準備と点検
- [] 照明のセットアップとテスト
- [] カメラバッテリーとメモリーカードの確認
- [] 三脚の安定性確認
- [] カラーチェッカーの準備

7-2. 撮影中チェックリスト

- [] カメラと作品の平行性確認
- [] 露出設定の最適化
- [] ピント確認（ライブビュー拡大表示の活用）
- [] カラーチェッカーのサンプル撮影
- [] 四隅の光量確認
- [] 反射やホットスポットのチェック
- [] 複数の設定での撮影（ブラケットイング）
- [] ヒストグラム確認

7-3. 編集チェックリスト

- [] モニターのキャリブレーション確認
- [] RAWファイルの適切な処理
- [] 色温度の調整
- [] 遠近感/歪みの補正
- [] トリミングと構図の調整
- [] 色彩の忠実性確認（実物との比較）
- [] 作品ディテールの確認（100%表示でチェック）
- [] 適切な形式とサイズでの保存

最後に

絵画の撮影は、単なる写真撮影ではなく、芸術作品の正確な記録と表現の両方を兼ね備えた技術です。

レベルに応じた適切な機材と技術を選択し、段階的にスキルアップしていくことで、

オンラインメディア上でも作品の魅力を最大限に伝えることができます。

最も重要なのは、「実物の作品そのものの印象」をいかに正確に伝えるかという点です。

特に色彩、質感、ディテールを忠実に再現することで、オンラインでの作品の価値を正當に

伝えることができるでしょう。

定期的な練習と撮影環境の改善を続けることで、より専門的な絵画撮影技術を身につけることができます。

◎発行

日本橋Art.jp(株式会社韋駄天)

〒103-0012

東京都中央区日本橋堀留町2-2-1 住友不動産人形町ビル

Mail : art@nihonbashiart.jp

営業時間 : 平日9:00~18:00 (土日祝除く)